高校編㉚ 最新事情

専門科目で知識と技術を深め、さまざまな活動でコミュニケーション力を養う

埼玉県立鳩ヶ谷高等学校

（埼玉県川口市）

埼玉県立鳩ヶ谷高等学校には県内唯一の園芸デザイン科がある。同科は実習を中心とする専門科目の設置や積極的な地域イベントへの参加など、体験を重視した活動を展開している。また、各種検定にも意欲的で、「課題研究」では秘書検定に挑戦する生徒もいる。園芸デザイン科の教育活動や秘書検定への挑戦を中心に、同校の取り組みについてお話を伺った。

埼玉県立鳩ヶ谷高等学校。同校の校舎が建つ前は，NHK鳩ヶ谷放送所があった

澁谷肇教頭

生徒が互いに学び合える教育を目指して

昭和63年に開校した鳩ヶ谷高等学校は、県内で一番新しい県立高校だ。園芸デザイン科の他に普通科と情報処理科があり、3学科合わせて約800名の生徒が勉学に励んでいる。

「進学を重視する普通科、情報処理技術を身に付ける情報処理科、そして園芸分野の感性と技術を磨く園芸デザイン科。開校当初から、当校では学科の特色を生かした教育活動を実践していますが、それだけでなく、学科を超えて互いに力を高め合えるような教育を目指しています」と話すのは澁谷肇教頭だ。その言葉通り、どの学科も3年次では他学科の科目が選択できるカリキュラムが組まれている。

「生徒は希望する進路に応じて専門的な科目を選択したり、資格取得を目指すための科目を選択することが可能です。どの生徒にも将来の希望や目標に向けて、何を学ぶべきなのかを常に意識しながら高校生活を送ってほしいと思っています。生徒が希望する進路を実現できるようにサポートする。それが私たちの目標です」と澁谷教頭は言葉に力を込める。

全校生徒が将来の希望に向けて全力で取り組めるよう、各学科がそれぞれの取り組みに力を入れている。中でも特徴的な活動を展開しているのが、埼玉県唯一の学科である園芸デザイン科だ。

園芸デザイン科では花や緑のスペシャリストの育成を目指し、植物を育てたり、美術的な感性やセンスを磨きながら園芸分野の力を養うことができる科目を複数設置している。例えば、「農業と環境」や「草花」、「生物活用」といった授業では植物の栽培方法を学び、実際に植物を育てながら知識を深めることができる。感性やセンスが必要とされるデザイン力に関しては、「総合デザイン」などの科目で色彩感覚を養うことができるのだ。こうした特長をさらに生かすための工夫について、園芸デザイン科の関根敏江先生はこう話す。

「園芸に関する知識や技能、デザイン力が身に付くよう、専門分野の授業に力を入れています。そこで、2・3年次の『フラワーデザイン

園芸デザイン科の関根敏江先生（左）と秘書検定の指導を担当する情報処理科の富田訓吉先生(右)

Ⅰ・Ⅱ』や『グリーンデザインⅠ・Ⅱ』の授業では、フラワーコーディネーター、造園家、インテリアコーディネーターなど、実際にプロとして活躍する方に通年で講師をお願いしています。フラワーデザインではフラワーアレンジメントやブーケ、コサージュや季節に合わせた制作方法を学習。グリーンデザインでは観葉植物などを使い、寄せ植えや室内ディスプレイなど、生活空間の演出方法を学びます。美術的な感性やセンスを養うには、実際にプロとして活躍している方の指導が必要です。20年以上も続いている科目で、当学科の一番の特徴です」。

プロの指導で作品と向き合う心を鍛える

大学や専門学校でも、各々の分野で活躍する社会人が講座や講演を行うことはあるが、1年を通じてプロから専門知識を学べる機会を設けているのは同学科ならではの取り組みと言えるだろう。

「毎年、こうした活動を続けていられるのは、協力してくださる講師の方々のおかげです。生徒はこの科目で、園芸やデザインなどの専門知識を深め、高度な技術を学ぶだけではなく、作品に対するモチベーションの持ち方や自ら学ぶことの重要性に気付くこともできます。『ここまでやればいいだろう』といった作品に対する妥協を捨て、とことん自分の作品と向き合うことの大切さを生徒たちに感じてほしい。限界を決めずに、もう一段上を目指せる向上心を持つことが大切だと思います」と関根先生。

こうした授業で得た学習の成果は、さまざまな場面で発揮されている。

「校内に作品を展示して、全学科の生徒に一番好きな作品を選んで投票してもらったり、学校行事の際にアレンジメントを飾ったりしています。入学式や卒業式では新入生や卒業生の胸に飾るコサージュを当学科の2年生が毎年、制作しています。手作りのコサージュは特別な思い出になるはず。毎年、心を込めて作っています」(関根先生)。

平成26年2月28日～3月2日に開催された第53回川口市花の文化展では，園芸デザイン科の生徒が作成したアレンジメントが飾られた

学習の成果は、近隣のショッピングセンターや市役所での展示、地域イベントへの参加などにより、校外に向けても発信している。校外での活動は年に7～8回ほど。展示だけではなく、生徒が市民にコサージュの作り方を教える「コサージュ教室」を開催するなど、地域の方との交流も大切にしているそうだ。

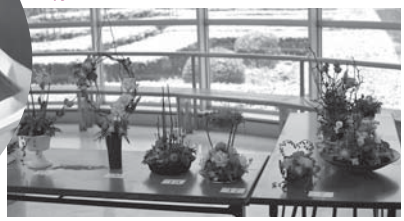
積極的に学習の成果を発表する場を設けている理由を関根先生はこう話す。

「作れなかったものが作れるようになったり、できなかったことができるようになれば自信が付きます。また『コサージュ教室』のような場面では、自分が教わった技術を人に教えるこ

県が主催する埼玉県産業教育フェアで作品を展示(右)。同フェアでは，生徒によるコサージュ体験教室も開催(下)

最新事情㉚……埼玉県立鳩ヶ谷高等学校

第8回NFD（公益財団法人日本フラワーデザイナー協会）全国高校生フラワーデザインコンテストで奨励賞を受賞した作品



園芸デザイン科2年生が開催したフラワーコンテスト。花，葉，器，デザインなど生徒自ら考えてアレンジメントを作成する。全校生徒による投票が行われた

制作に集中する生徒。広い実習室にはアレンジメントの制作に必要な花材や道具が所狭しと置いてある

とで、着実に力が身に付いていることを実感できるでしょう。そうした自信や実感が次の挑戦につながります。展示・イベントなどへの参加や地域の方との交流を通して、『やればできる！』と生徒に気付いてもらいたいのです」。

学んだことは必ず身に付く。それを生徒に実感してもらいたい、という関根先生の熱い思いが伝わってきた。

学科を超えて秘書検定に挑戦！

「他にも、資格取得や各種検定に挑戦し合格することで学びの成果を感じ、自信を付けることが可能です」（関根先生）。

先述した専門分野の授業では専門技能や知識を身に付けるだけではなく、園芸に関連する技能検定3級（国家資格）の取得も目指している。フラワー装飾・園芸装飾・造園のいずれか一つを選び、合格を目指して課題制作に取り組む。昨年度は技能検定3級に受検生全員が合格。「皆、よく頑張りました」と関根先生は喜びを隠せない様子だ。

同校ではこうした専門分野の検定のほか、専門外の資格や検定取得も推奨しており、挑戦を後押ししている。

「秘書検定」もその一つだ。園芸デザイン科の生徒に限らず情報処理科、普通科の生徒も秘書検定2・3級に挑戦しているという。

「秘書検定に挑戦するのは『課題研究』で秘書検定を学んだ園芸デザイン科と情報処理科の生徒が中心ですが、検定に興味がある普通科の生徒も挑戦します。毎回、3学科合わせて約20名が受験。生徒の挑戦を無駄にせず、合格をつかんでもらいたい。そうした気持ちもあり、放課後に補習を実施しています」と話すのは、補習を担当する情報処理科の富田訓吉先生だ。

「補習は検定試験の直前に5～6回行っています。参加は義務ではありませんが、自主的に受験を決意した生徒ばかりなので皆、意欲的です。約1時間の補習は過去問題演習と解説が中心です。要点をまとめたプリントを使いながら、一つずつ重要な部分を確認していきます」。

富田先生オリジナルの「秘書検定対策プリント要点整理2・3級」には、敬語や接遇用語の種類や来客・面会の取り次ぎ方などが一目で確認できるようになっている。指導は2～3年前から始めたばかりだと富田先生は話すが、プリントの完成度の高さや指導に対する真剣な姿勢が生徒を合格に導いているようだ。昨年度には、初めて秘書検定団体優秀賞を受賞した。

秘書検定について澁谷教頭はこう話す。

「当校は10年以上にわたり、秘書検定の受験を続けています。ここまで途切れずに続いているのは社会で必要とされるマナーを学べるからです。また、難し過ぎず勉強すれば合格できる内容ですから生徒は挑戦しやすいと思います」。

園芸デザイン科の関根先生も「マナーや立ち居振る舞い、敬語などは高校生では学ぶ機会が少ないのが現状です。初めて学ぶ生徒も多く、『のしって何ですか？』などと尋ねられることもあります。秘書検定を通して、新たな発見や知識を得られることは素晴らしいことです。それに園芸デザイン科の生徒は社会人の方や地域の方と接する機会が多いので、学んだことをすぐに実践できるのが強みです。秘書検定に合格した生徒は、他の生徒に比べてしっかりとした印象を受けますね」と頬を緩ませる。

富田先生は最後に頼もしい言葉を聞かせてくれた。「補習に参加する生徒は皆、学科は違うものの、分からない部分を教え合うなど、互いに学び合う姿勢が見て取れます。目標を立てクリアしていく姿は他の生徒のお手本です。今後も生徒の挑戦を支えていきたいです」。